

第6週の発生動向(2006/2/6~2006/2/12)

- インフルエンザは、全体的には減少傾向にあります。むつ保健所管内で引き続き**警報**が、八戸保健所管内を除くすべての保健所管内で引き続き**注意報**が出されています。
- 伝染性紅斑は、弘前保健所管内で引き続き**警報**が出されています。
- 流行性耳下腺炎は、五所川原保健所管内で引き続き**警報**が、むつ保健所管内で引き続き**注意報**が出されています。

第6週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ	246	17.57	224	14.93	127	9.07	126	18.00	196	21.78	173	28.83	1092	16.80	-329
(60) 咽頭結膜熱									1	0.17	2	0.50	3	0.07	-1
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	1.00	14	1.56	4	0.44			5	0.83			32	0.76	-6
(62) 感染性胃腸炎	72	8.00	60	6.67	13	1.44	3	0.60	17	2.83	16	4.00	181	4.31	-14
(63) 水痘	22	2.44	12	1.33	11	1.22	4	0.80	3	0.50	6	1.50	58	1.38	-10
(64) 手足口病									1	0.17			1	0.02	0
(65) 伝染性紅斑	9	1.00	24	2.67	1	0.11	1	0.20	2	0.33			37	0.88	-23
(66) 突発性発しん	2	0.22	2	0.22	2	0.22	1	0.20	2	0.33	4	1.00	13	0.31	-8
(67) 百日咳															0
(68) 風しん					1	0.11					1	0.25	2	0.05	1
(69) ヘルパンギーナ									1	0.17			1	0.02	1
(70) 麻しん(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	2	0.22	3	0.33	5	0.56	14	2.80	8	1.33	14	3.50	46	1.10	-3
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	1	0.50			1	0.50	1	1.00	2	1.00			5	0.45	3

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	14	9	5	2	1
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

は警報 は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (18年計には、今回届出された人数を含む)

- (59) RSウイルス感染症(五類定点把握疾患) 弘前保健所管内: 5人 (18年計 53人)
(82) マイコプラズマ肺炎(五類定点把握疾患) 八戸保健所管内: 4人 (18年計 28人)

感染症の窓

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)

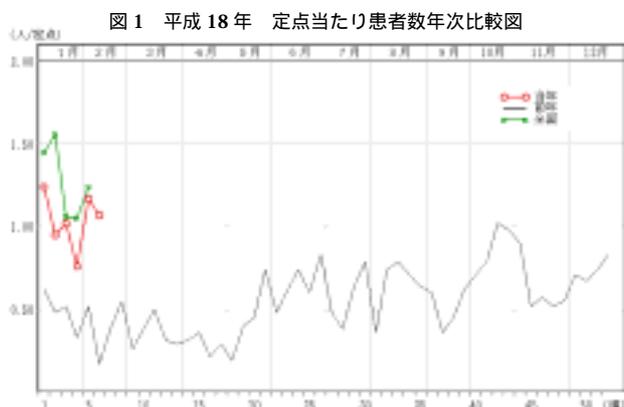
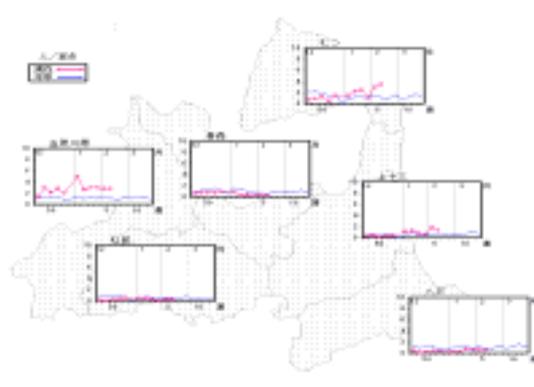


図1 平成18年 定点当たり患者数年次比較図

図2 保健所管内別流行性耳下腺炎報告数



本年の青森県における流行性耳下腺炎の定点当たり患者数は、全国より低く推移していますが、前年に比較すると、高い値となっています(図1)。保健所別では五所川原保健所管内とむつ保健所管内で多く報告されており(図2)、今後の動向に注意が必要です。

疫学: 報告患者の年齢は4歳が最も多く、3~6歳で約60%を占めています。**病原体:** ムンプスウイルスです。**臨床症状:** 2~3週間の潜伏期を経て、耳下腺の腫脹・圧痛・嚥下痛・発熱を主症状として発症し、1~2週間で軽快します。**感染経路:** 接触あるいは飛沫感染で伝播しますが、その感染力はかなり強いです。**治療・予防:** 治療は対症療法で、効果的に予防するにはワクチンが唯一の方法です。

